

# 日本農業気象学会 2007 年度第 1 回理事会議事録

日 時：2007 年 9 月 12 日（水）18:00～20:00

場 所：東京農工大学農学部

出席者：蔵田，青木，平野，皆川，大政，小林，後藤，井上，横山，町村，荊木，菅谷，小沢，脇水，清野，富士原，大原，宮田，大野，朝倉，松岡，沖，渋谷，北野

欠席者：田中，王

## [役員紹介]

議事に先立ち，出席者の自己紹介を行った。新会長より，本学会の健全さを維持，発展させるため，財政的な健全さの確立に加えて，若い会員に活躍の場を与えるなどの方針が示された。

## [議事録確認]

2006 年度第 4 回理事会議事録（案）を承認した。

## [報告・連絡事項]

1. 2006 年度評議員会および 2007 年度総会を 2007 年 9 月 11 日に開催した。
2. 評議員・理事の投票により，2006 年度学会賞受賞者ならびに永年功労会員を決定した。（宮田庶務理事）
3. 永年功労会員に贈呈する記念品をルーペ兼用文鎮に決定した。（大原総務理事）
4. 企画講演委員会と関東支部が，2008 年 11 月上旬につくば（研究交流センター）でシンポジウムを開催することを合意した。（沖企画講演委員長）
5. 研究部会の今後の活動予定について調査を行い，各部会から以下のような回答があった。なお，研究部会内規に従って，各部会は 3 年間に 1 回以上の研究報告を学会誌に掲載することが求められている旨，説明があった。（宮田庶務理事）
  - 気候影響評価研究部会（1994 年 6 月設立）：2007 年 9 月で活動終了
  - リモートセンシング・GIS 研究部会（2000 年 12 月設立）：継続
  - 生態系プロセス研究部会（2003 年 7 月設立）：継続（補助は申請しない）
  - フラックス観測研究部会（2004 年 4 月設立）：2007 年 9 月で活動終了
  - 園芸工学研究部会（2006 年 6 月設立）：継続（設立時より補助を辞退）
6. 学会ホームページに，2007 年度日本農業気象学会賞の公募，風に関するシンポジウムおよび気候変動シンポジウム（内閣府）の開催案内，日本農業気象学会 2007 年春季大会の報告，学会賞受賞者および永年功労会員のリストなどを掲載した。（大原総務理事）
7. 共催・後援関係（宮田庶務理事）
  - 1) 「第 53 回風に関するシンポジウム」（2007 年 6 月 21 日開催）について，幹事学会であ

る水文・水資源学会から報告があった。また、当学会が幹事学会となり、「第 54 回風に関するシンポジウム」を 2008 年 2 月 23 日に山口大学で開催する。開催案内は共催学会に配布済み。

- 2) 岩手大学主催の「盛岡高等農林学校関豊太郎教授記念シンポジウム 地球温暖化は「サムサノナツ」をなくすのか」(2007 年 9 月 19 日)を共催する(既報)。
- 3) 農業農村工学会主催の「地球温暖化と農業資源に関するシンポジウム」(2007 年 10 月 9 日)を後援する。
- 4) 「第 3 回国際 O-CHA 学術会議」(2007 年 11 月 2-4 日)を後援する(既報)。
- 5) (社)日本能率協会主催の「アグロ・イノベーション 2008」(2008 年 7 月 16-18 日)を協賛する。前回までのように無料の展示ブースが学会に配分されるかどうかは、現時点では不明。状況が明らかになってから学会としての対応を検討する。
- 6) 本学会が協賛する「第 18 回国際生気象学会議」(2008 年 09 月 22-26 日)(既報)のセカンダリキュラーをホームページに掲載した。

#### 8. 編集委員会報告(小林編集委員長)

- 1) 2007 年度第 1 回編集委員会(2007 年 9 月 12 日)で、互選により小林委員長、青野副委員長を選出した。
- 2) JSTAGE を利用した編集システムの実現に向けて検討を行う。

#### [審議事項]

##### 1. 2009 年春季大会

皆川理事より、以下のような開催案が提案された。2009 年 3 月 26 日(木)、27 日(金)の両日、福島県農業総合センターで開催する。大会委員長は岡田益己(東北農研)、実行委員長は荒川市郎(福島農総セ)、エクスカージョンはなし。

審議の結果、以下の 3 点を決定した。

- 1) 2008 年以降は総会を春季大会で開催する。2009 年春季大会での総会の開催が難しい場合には、同年の農業環境工学系学会連盟(いわゆる「フェデレーション」)による合同大会で開催する。
- 2) 2008 年度は農業環境工学系学会連盟による合同大会が開催されないため、2008 年全国大会(2008 年 3 月、下関市)に対する本部補助として、合同大会への分担金と同額の 50 万円を 2008 年度一般会計予算に計上する。2009 年度は合同大会が開催される見込みなので、春季大会は本部補助なしでの開催を目指す。
- 3) 2009 年春季大会でのミニシンポジウムまたは英語セッションの開催について、企画講演委員会で検討する。

##### 2. 2008 年全国大会(2008 年 3 月、下関市)

準備の進捗状況について、荊木理事より報告があり、審議の結果、大会スケジュールを一部修正し、評議員会は 90 分間、総会は 2 時間とすることにした。また、オーガナイズドセッションを夜、開催することを了承した。

##### 3. 平成 20 年度日本農学賞受賞候補者の推薦(大原)

大原総務理事より、過去 2 年間、本学会から候補者を推薦していないので、今回は推薦したいとの提案があった。審議の結果、学会ホームページで会員に候補者の推薦を呼びかけ

(締め切り 9 月末, 富士原総務理事宛), 学会賞審査委員会で推薦の可否および推薦順位 (複数の候補者が推薦された場合) を決定することとした。なお, 推薦書の提出締め切りは 11 月 22 日。

#### 4. 2005-2006 年度に浮かび上がった課題

出席者より以下の諸課題が挙げられた。次回以降の理事会および関連する委員会で, 具体的な対策を検討する。

- 1) 会員数の動向を踏まえた会員数の維持のための方策。
- 2) 財務の動向を踏まえた長期的な財政改革の方向 (事務局・会員管理経費や編集経費の削減, 業務委託先の検討など)。
- 3) ホームページによる広報で不十分な点の改善 (メーリングリスト登録者は会員の約 6 割)。
- 4) 学会のアイデンティティの確立。
- 5) 科学としての活動以外の行政・産業界との連携。
- 6) 理事会の在り方 (役職分担と全員のグループ担当性へ) と若手の登用。理事会の時間配分。
- 7) 会誌のあり方。

#### [その他]

1. 早川前副会長を 2008 年全国大会担当理事 (会長指名理事) とすることを了承した。また, 学会賞審査委員会および永年功労会員表彰審査委員会はそれぞれの事業を理事会から独立した立場で遂行する委員会なので, その委員長は会長指名理事とはせず, 必要に応じて理事会への出席を求めることで合意した。
2. 2007 年度第 2 回理事会を, 2007 年 12 月 14 日 (金) に東京大学農学部で開催する。